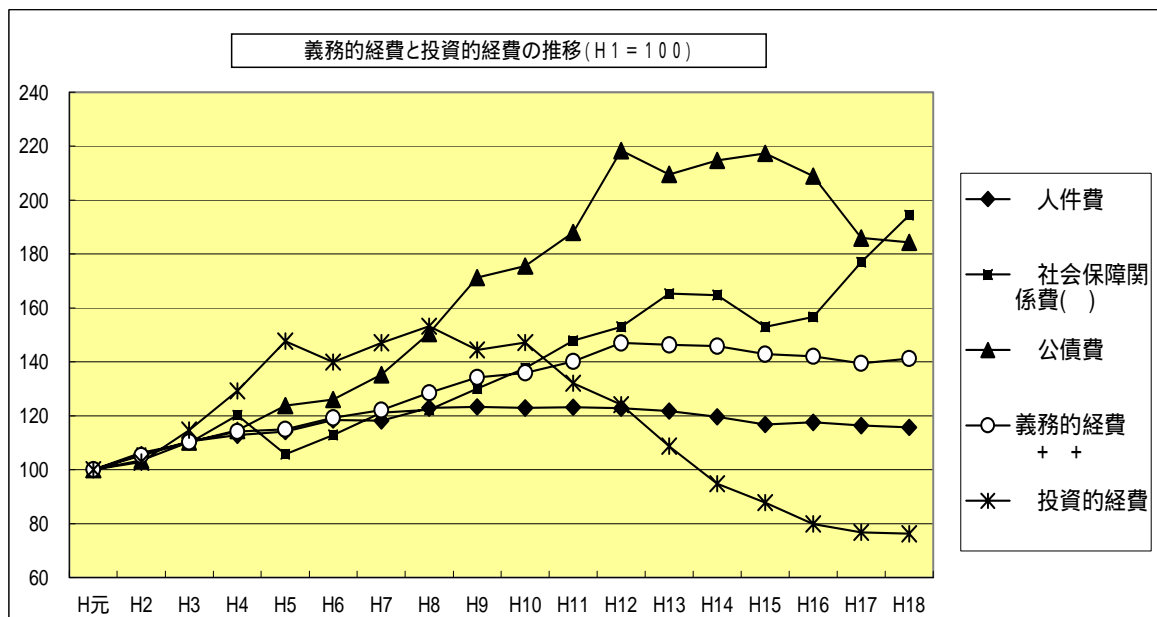


(問) どうして、毎年こんなに財源不足が発生するのですか？歳入に見合った歳出とすることはできないのですか？

(答) 現在、本県の歳入のうち最も高い割合を占める地方交付税や地方税の増が見込めない中、歳出面においては高齢化の進展等に対応した社会保障関係経費が増加する傾向にあり、職員の人件費や公共事業の抑制を行ってもなお、貯金(基金)を取り崩しながら、毎年度やりくりしている状況にあります。

しかしながら、そのやりくりも貯金(基金)が底をつくなど限界にきており、中期財政見通しでお示したように、今後4年間で最大約480億円もの財源不足が見込まれることから、一切の聖域なしに見直しを行い、歳入に見合った歳出へと転換を図る必要があります。そのためには、ある程度の行政サービス水準の低下についても議論せざるを得ません。

歳入に見合った歳出とするのが財政運営の基本ですので、歳入に見合った行政サービスの在り方を改めて県民の皆様と模索して行く必要があると考えています。



項目	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
人件費	100	106	111	113	114	118	118	123	123	123	123	122	120	117	117	116	116	
社会保障関係費( )	100	106	110	120	106	113	121	122	130	138	148	153	165	165	153	157	177	194
公債費	100	103	110	115	124	126	135	150	171	176	188	218	210	215	217	209	186	184
義務的経費 ++	100	105	110	114	115	119	122	129	134	136	140	147	146	146	143	142	139	141
投資的経費	100	103	115	129	148	140	147	153	144	147	132	124	109	95	88	80	77	76

社会保障関係費は、扶助費に民生費補助(介護保険費・老人医療費等)を加えたものである。